



関西の活かしたい自然エリア 18.(金剛山地・和泉山脈)

エコツアーレポート

目次

■実施の前に

- 1, 目的
- 2, 訪問エリアの特色 … 1
- 3, スタディツアー実施地
- 4, 18 奈良側エリアの特徴

■実施計画

- 1, 本ツアーのねらい … 2
- 2. 選定場所と選定理由 … 3
- 3, ターゲット
- 4, コース
- 5, 実施日 … 4
- 6, 募集チラシ
- 7, 募集結果 … 5

■当日の様子 … 6～12

■まとめ … 13

1, 目的

関西広域連合では、「関西広域環境保全計画」に基づき、生物多様性の保全にとって重要な場所を「関西の活かしたい自然エリア」として選定・公表し、自然エリアにおけるエコツアアの推進等を通して地域資源の保全と有効活用を進めるとともに、生態系サービスの持続的な向上に取り組んでいます。

今回は「関西の活かしたい自然エリア」として新たに加わった奈良県のスポットを訪問し、自然環境の持つ可能性を引き出す新たな活用のあり方を考えるとともに、生物多様性の大切さや、人と自然との関わりの重要性を改めて感じていただくことを目的としています。

また、本スタディツアーを通じて自然環境保全へのさらなる理解を深め、環境保全の活性化に寄与することを目指しています。

2, 訪問エリアの特色



訪問エリア
18 金剛山地・和泉山脈

該当都道府県
大阪府、奈良県

本エリアは丘陵地と山地域からなり、和泉葛城山・金剛山・大和葛城山の稜線部にはブナ林が残されています。山麓から平地にかけて農林業が続けられ、里地里山の生態系が維持されてきました。

和泉葛城山では山頂から平地まで農林業が行われ、生態系保全につながっています。下赤坂の棚田では、金剛山に由来する水源をもつ川と棚田のつながりが見られます。大和葛城山では、大和葛城山の山頂部はブナ林とススキ草原で、大阪側は人工林、奈良県側は里山林となっており、異なる森林の保全と活用方法を知ることができます。

このように、都市近郊でありながら農林業とともに育まれてきた豊かな里地里山の自然を学べるエリアです。

3, スタディツアー実施地

18. 奈良県側の葛城付近

4, 18 奈良側エリアの特色

対象とする地域は、西に金剛生駒紀泉国定公園をはさみ大阪府と隣接する地域で、金剛・葛城・二上 西部の山並みと東に広がる沖積地で構成された立地環境となっています。また、古くから豊かな自然と古代の史跡が多く重要文化財である當麻寺、法隆寺、馬見古墳群が点在しており、**歴史と文化的価値の高い地域**であることも特徴です。対象地北側には明神山地南に広がる香芝丘陵地がみられ、古くから人と里地との距離が近く、人の関わりのもと維持された**生物多様性価値の高い地域**です。

スタディツアーの実施〈実施計画〉

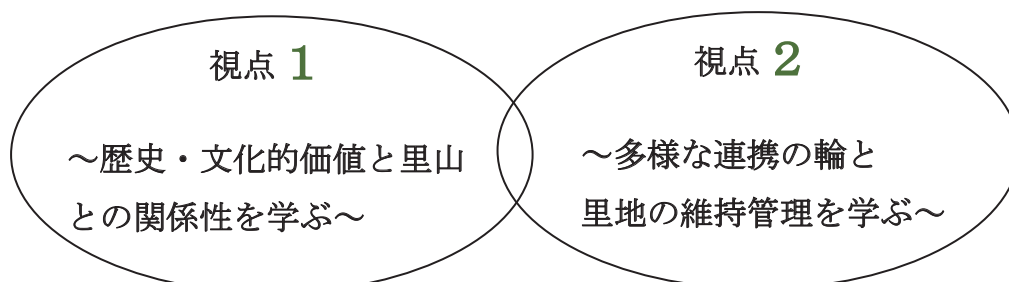
1. 本ツアーのねらい

「歴史・文化的価値の高い里地と人との関係の深い二次的自然環境」を学ぶ

二次的環境とは、人との関わりのもと維持された環境です。

長い年月をかけて、多様な自然環境が生まれ、そこに歴史・文化と自然が融合した関係性が築かれています。本スタディツアー実施地は、1300 年以上前（飛鳥時代）から続く歴史・文化と豊かな自然が融合した場所であり、里地里山として、古くから人との関係性が築かれてきた地域でもあります。時代の変化とともに、人と自然、人と歴史・文化との関係性は変化してきましたが、人・自然・歴史・文化が融合する本地域の価値を、次世代に向けて引き継ぐ方法を考えていく必要があります。

そこで、本地域の特性でもある「人と歴史・文化」「人と自然（里山）」といった 2 つの視点から、人との関わりのもと維持される二次的自然のあり方について学ぶことを、本ツアーの狙いとしします。



2, 選定場所と選定理由

陽楽の森

「ひとと活動が育む都市のなかの森」

視点2：～多様な連携の輪と里地の維持管理を学ぶ～

住所：奈良県北葛城郡王寺町島田2

奈良県北西部の北葛城郡王寺町と上牧町にまたがる、約50haの小さな丘状の森で、二次的自然に特有の生物相や生態系が形成されている場所です。

2023年10月に環境省の「自然共生サイト」に認定されました。



當麻寺護念院

「寺院から発信する環境保全」

視点1：～歴史・文化的価値と里山との関係性を学ぶ～

住所：奈良県葛城市當麻1263

奈良県葛城市にある當麻寺の境内西側、二上山の東麓に位置している寺院。

當麻寺塔頭の中核をなす浄土宗寺院であり、中将姫の棲身旧跡寺院（中将姫がお住まいであったお寺）として多くの信仰を集めています。



陽楽の森

陽楽の森は、本活動団体の母体である谷林業が所有していた、約50haの独立峰からなる里山です。谷林業株式会社代表取締役の谷茂則様は、江戸時代後期より奈良県北葛城郡王寺町周辺で山林経営を続けてきた林業一家の一員です。

この里山は街に近い立地にあったことから、適切な管理のもとで多様な連携を促し、里山を再生することで、森林保全や自然体験、環境教育の場として活用することを目的に、「陽楽の森」プロジェクトがスタートしました。

里山を維持するには多様な連携や人との繋がりが重要です。そのため陽楽の森では、セブンイレブンや市民生活協同組合ならコープなど企業との多様な連携を図りながら、地域の人々が集い、里山の整備に取り組む場として活性化図っています。このように、人の活動によって自然が維持される仕組みが構築されており、里山の維持管理方法や人や企業が参画する仕組みを学ぶことができると考え、今回のツアー訪問地に選定しました。

當麻寺護念院

當麻寺護念院は、ニホンミツバチ達が新たに巣を作ってもらえるような環境をつくるビーフォレスト活動への参加、「お寺で始めるSDGs」としてカーボンニュートラルの実践、奈良の大学生とともにプロジェクトの実施などの地域や自然と繋がる活動に積極的です。

古来の庭園風景を復活するべく、定期清掃・整備も住職夫婦自ら行っています。埋もれていた祝儀の庭（鶴亀の庭）の復元とともに、維持管理を続けることによる四季の美しさや苔庭の再生など日々、人の手を加えるごとに伝統的な庭園の風景づくりを行われています。また、人が手を加えることで、多様な生き物が暮らす環境が形成されてきたと伺っています。そのように丁寧に手入れされた庭園は、住職の子どもやその友人たちにとって、身近な遊び場でもありました。

歴史・文化的な価値の維持と人が関わることによる生物の多様性を学ぶ場所として、今回のツアー訪問地に選定しました。

3, ターゲット

二次的自然を維持するための 自然共生サイト登録を目指す団体

企業

NPO

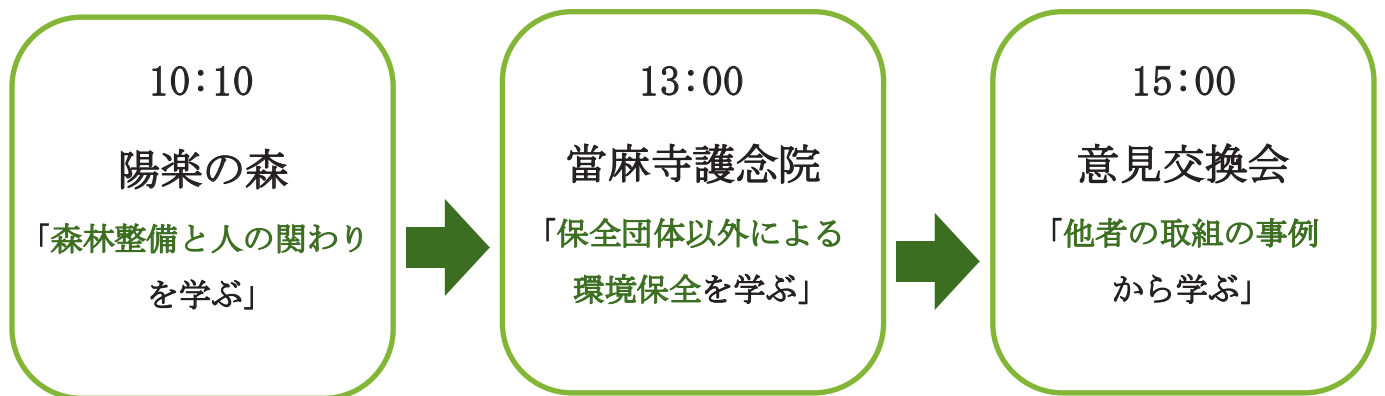
など

二次的自然を維持していくには、維持管理などの持続性ととも、その基盤となる人との関わりや新たな参画を促していく必要があります。

本ツアーは継続性といった二次的自然環境に必要な維持管理を続けていくことの方法を学び、協議ができる場を設けることを目的として自然環境保全に関心のある団体にターゲットを絞りました。

4, コース

10:00 JR/近鉄 王寺駅集合



16:00 近鉄 尺土駅解散

5, 実施日

2025年12月14日(日) 10:00 ~ 16:00

6, 募集チラシ

募集チラシは右の通り。

**2025
12/14(日)
10:00 ~ 16:00**



奈良を舞台に、
人と自然との繋がりを考えませんか？

関西広域連合主催 令和7年度「関西の活かしたい自然エリア」
**陽楽の森・當麻寺護念院を巡る
スタディツアー**

当スタディツアーについて
関西広域連合が選定する生物多様性の保全にとって重要な場所「関西の活かしたい自然エリア」を舞台にしたスタディツアーを開催します。
訪問エリアは、古蹟や歴史ある寺院が点在する文化的価値の高い地域です。また、豊かな里地山山の自然が残されており、貴重な生きものも確認されている、生態学的にも重要な場所です。
今回訪れる「陽楽の森」と「當麻寺護念院」は、「自然とともに生きる」という想いを大切にしなが、それぞれの立場・視点で二次的自然を保全しています。両団体への訪問は、新たな自然との関わり方を発見し、自然共生サイトの取得にも繋がる貴重な機会です。皆様の参加をお待ちしています！

参加費:3000円(シャトルバス代、昼食代込) ※当日支払
持ち物:動きやすい恰好、防虫剤
募集人数:20名(1団体2名まで)
職場帰休に伺える企業・団体の参加をお待ちしております。

申し込みは右側QRコード
または info@kankai-shiki.jp まで
電話:075-708-8587
メール:office@addplants.co.jp
でも受け付けています。

申し込みは右側QRコード
または info@kankai-shiki.jp まで
電話:075-708-8587
メール:office@addplants.co.jp
でも受け付けています。

11/30(日)付

【午前の部】

10:00 ~ 10:30 三寺新道ロータリー集合 (JR大和路線、和歌山駅 / 近鉄生駒駅)

10:30 ~ 11:40 **陽楽の森**
「陽楽としての森」と「陽楽の森」両団体の森の役割と自然のつながりについて解説いただきながら里山林内を散策します。

12:15 ~ 當麻寺護念院に移動後、昼食

【午後の部】

13:00 ~ 14:30 **當麻寺護念院**
「陽楽としての森」と「陽楽の森」両団体の森の役割と自然のつながりについて解説いただきながら里山林内を散策します。

14:30 ~ 話題提供:①訪問者の課題と要望 ②企業向け自然共生サイト認定と持続可能な仕組み

15:00 ~ 15:40 **意見交換会**
参加団体の課題や今後の取り組みについて皆さまで意見交換を行います。

16:00 解散: マイクロバスで尺土駅まで送迎(近鉄大和線/近鉄生駒駅)



「関西の活かしたい自然エリア」

関西広域連合では博物館ネットワーク等を活用し、森・川・海のつながりを重視し、府県域を超えた広域的な視点に立ち、生物多様性保全上重要な地域として、23 区域にわたる「関西の活かしたい自然エリア」を選定し、公表しました(平成28年11月17日)。高山山岳部の森を基盤として生物多様性に富み、地域的な自然的・文化的資源(以下「地域資源」)の継承の機会を豊富にとり、自然リソースにおけるエコツアーの推進等を通じて地域資源の保全・活用や自然エリアの生態系サービスの維持・向上を図っています。訪問先の「陽楽の森」(當麻寺護念院)は、18、全園地・和歌山駅に該当します。

陽楽の森

〒636-0021 奈良県生駒郡三宅町南田2丁目
「陽楽の森」は、奈良県生駒郡の北高城郡王寺町と上牧町にまたがる約50haの森である。高度経済成長期のニュータウン開発の中で残された都市林で、JR 近鉄駅から徒歩で訪れることができる。森林全体のうち10haほどが当麻寺の境内林となっている。種多様性によって里山生態系を有するパートナーシップが可能なことが評価され、2023 年 10 月に当麻寺の「自然共生サイト」に認定された。

大和森林管理協会理事
谷茂則

当麻寺境内に約100haの山林を所有し、密着する自然の代表者として、自然共生サイト認定の機会に合わせ、自然共生サイトの維持管理の推進に努めている。自然共生サイトの推進に努めている。

當麻寺護念院

〒639-0276 奈良県高市郡 1263
護念院は當麻寺境内の中腹をなす浄土宗寺院。中興の母身即身即心(中興が母身であること)として知られる。中興より、中興を母身とし、中興が母身であることを當麻寺の御縁会式に中心に表現されている。當麻寺御縁会式は2024年に同様の御縁会式文化に継承された。現在は23件の御縁会式の御縁会式に取組んでいる。(お寺で約6,000名)としてカーブ・ネットワークの推進も行っている。

護念院住持
葛本雅崇

2024年6月一筆御縁会式開催
御縁会式として御縁会式を行う中で、念仏の御縁会式を、御縁会式に中心に表現している。自然とのつながりを重視し、自然共生サイトの推進に努めている。

7, 募集結果

府県

和歌山県
1名

大阪府
1名

京都府 **8名**

岡山県
1名

奈良県 **3名**

兵庫県 **4名**

イベント参加者 **18名**

所属

NPO **6名**

企業 **8名**

学校関係者
2名

アーティスト
2名

イベント参加者 **18名**

環境とのかかわりがある団体に

所属していない
3名

所属している
15名

5

スタディツアーの実施〈当日の様子〉

訪問先①) 陽楽の森

学んだこと

谷林業株式会社代表取締役社長兼「陽楽の森プロジェクト」発起人の谷茂則様に、陽楽の森を案内していただきました。まず陽楽の森を歩くと、すぐに建設途中の建物が目に入ります。山と人の関わりを築く拠点となるカフェができるそうです。

道中では、セブンの森奈良での竹林の整備等の取り組みを中心に、人の関わりによる環境整備・保全の取り組みについて解説が行われました。

当スタディツアーの2週間前には市民生活協同組合ならコープと連携したプロジェクト「ならコープの森」で植樹イベントを行っていたそうで、実際の植樹場所にも案内していただき、そのときの話も聞かせていただきました。

陽楽の森はその他にもさまざまなイベントのフィールドとなっているそうです。

周辺の風景を見渡すことができるツリーハウスや、樹種が書かれた木製の名札など自然にあまり関わりがない人でも楽しめる仕掛けもたくさんあり、ただ歩くだけでも自然に人を取り込むヒントを学ぶことができました。



課題と成果

この訪問を通して、単なる自然観察に留まらず、「いかにして人を森に呼び込み、保全活動を仕組み化するか」という地域共生・環境保全のヒントを得ました。

森林をはじめとした自然環境に人を呼び込むことは簡単なことではありませんが、方法次第では千人規模の人を集めることができるという事実は環境保全に取り組んでいる参加者にとって背中を押される話だったことでしょう。

昼食

當麻寺護念院に移動後は昼食です。
昼食では、精進弁当とお吸い物をいただきました。



／ コラム ／

精進料理について

「不殺生戒（ふせっしょうかい）」、すなわち生き物を殺さないという戒律があり、修行僧の精神的修行の一環として発展しました。

精進料理は、ただ単に肉を避けるというだけでなく、自然への敬意や生命を大切にするという哲学を反映しています。

精進料理を食すことで、自然の恵みへの感謝がより一層高まることを祈り、提供しました。

訪問先②) 當麻寺護念院

学んだこと

午後からは、當麻寺護念院第 22 世住職・葛本雅崇様ならびに寺庭の葛本志保様より、當麻寺護念院が取り組んでいる環境活動の事例について解説が行われました。

本堂を拝観後、庭園へ。庭園にでると、二上山を借景とした見事な風景が眼前に広がります。

山へと続く遊歩道を巡りました。その際、住職自らが手入れを行い復活させた苔を観察するとともに、日常的に実施されている整備活動について説明を受けました。

実際整備していた時の話を聞きながらその場所を通ることで、整備に励む様子が目に浮かんできます。

現在は綺麗なことが当たりまえのように整備されていますが、整備する前は荒れ果てていたそうです。今は見ることができる亀の庭石も整備する前は草で覆われていたそうです。その状態から住職と寺庭自らが整備を繰り返し、今の綺麗な状態になり、昔自生していた植物も復活し始めました。美しくなった庭で音楽祭を開催したりすると、庭に暮らす生物も喜んでくれるようで顔を出します。そのような庭と生き物との繋がりについても楽しいお話を伺うことができました。



課題と成果

ですが、それを知らない人は庭園の植物の価値に気付かず、踏んでしまうことも。

自然の価値を人に伝える難しさを知り、自然と人の関わり方について改めて考えるととても良い機会になりました。

昔の庭園の姿に戻りつつありますが、手をいれなくなれば再び荒廃してしまいます。人の手が入ることで歴史・文化的価値の風景の再生と多様な生物が暮らす環境づくりの重要性を再認識するきっかけとなる訪問でした。

ツアー終了後にはこの訪問を受け、庭園の価値を継続するための日々の維持管理の実践を学んだと話す参加者も。



當麻寺護念院の場所をお借りして、話題提供と後に続く意見交換会を最後に行いました。

話題提供として、今回のスタディツアーで訪問した陽楽の森の谷茂則様と、當麻寺護念院の葛本雅崇様から、それぞれ課題と展望についてお話をいただきました。

谷茂則氏
(陽楽の森)



都市近接という立地を活かし、多様な主体が日常的に関わる場を山の中に作る活動や、その活動を通じた環境保全の展望についてお話がありました。

その際、「ネイチャーポジティブ」の取組が評価されたことに加え、2023年9月には中小企業庁により、全国でまだ10社しか選ばれていない「ローカルゼブラ企業」に選定されたというお話を伺いました。

エコフェスやマルシェを実施するとともに、陽楽の森へのカフェ誘致も予定されており、自然に関わる入り口としての取組が進められています。

さらに、「社会課題解決型の森づくり」へと転換し、「陽楽の森」を拠点に森林プラットフォームを構築するという展望に向け、日々尽力されています。

葛本様からは、護念院にかつて存在していた自然の再生に関する展望と、環境保全のために他者と連携しながらおこなっている取り組みについてお話をいただきました。

「當麻寺プロジェクト」を通じた大学との連携や、そのほかの大学との環境を守る取り組みなど、人を巻き込んだ事例について説明していただきました。

また、自然と人以外の生き物との融合を目指した庭園づくりを展望として掲げています。庭園内の池にはバッタ等の昆虫が住んでおり、その展望が実現していることと、その実現のための見えない努力を感じます。

自然環境の取り組み以外の側面では、當麻寺練供養が国指定重要無形民俗文化財に指定されている話もありました。

葛本雅崇氏
(當麻寺護念院)



陽楽の森



當麻寺護念院



陽楽の森と當麻寺護念院の訪問、そして話題提供を通じての一番の学びは「自然は人の手が入らないと維持されないこと」。そして、「自然に関わる人を増やすには様々な工夫した取り組み」が必要ということだと思います。参加者の大半は以前から自然と関わっている方々であり、日頃から意識している内容ではあるものの、改めて再認識する機会となるツアーでした。

また、2団体ともに、マルシェの開催（陽楽の森）、ビーフォレストへの参加等（當麻寺護念院）、自分から自然のためにできる活動を見つけて、実践しています。

環境保全に関わりたいが何をすればいいかわからないという方にとっては、環境保全の事例についても学ぶことができる時間になりました。



その学びを経ての意見交換会での内容は以下になります。

話題提供に続く意見交換会では、まずイベント参加者による自己紹介を行いました。自己紹介では、参加者それぞれの活動についても詳しくお話をいただきました。

意見交換会では、「活動の輪を広げる方法や事例」や「訪問先のために自分が参画できると考えたこと」について意見を交わしました。

その中で出てきた意見を一部抜粋します。

・自然観察会のみを目的にするのではなく、草刈り等の森づくり活動を楽しんで行う方を集めるようなアプローチをする。お金を払って、管理のために庭園の花を摘んで、その花をアレンジして楽しむようなプログラムを組むのはどうか。
(環境コンサルタント)

・京都の町家や寺院内で自然史の展覧会をする試みがある。同じことが環境再生や自然共生というものをテーマにしてもできるではないか。
(アーティスト)

・京都では「いきものフェスタ」や「いきもにあ」のようなイベントが多い。大阪でも自然史博物館で自然史フェスティバルが行われている。奈良はそういう催しが少ないので、ぜひ奈良でも行っていただきたい。
(学会誌編集業)

各訪問先のコメント

普段出会わない方ばかりなので、もう少し意見交換ができる一泊のツアーならもっとよかった。林業だけではなく色々な人が各々の価値観をぶつけながら生み出すということはこういう場のことだと思う。

谷茂則氏
陽楽の森

當麻寺護念院では生け花の展覧会やピアノのコンサート等の文化的な催しはご依頼があれば開催する。けれど、自然共生についての催しはしてこなかったもので、スタディツアーとまた違った催しができれば面白いと思った。一度相談してみようと思う。

葛本雅崇氏

我々も大学や高校とコラボしながら活動している。年代や国が違えば視点が違うのでそこを大事にしている。コンサートでいうと、寺院の庭でも以前行ったことがある。そのときはギター奏者の方が演奏したが、寺院の自然の音と合わさり唯一無二の空間となった。

葛本志保氏
當麻寺護念院

写真

話題提供



意見交換会



まとめ

それぞれの訪問先での話を聞いて、今後の活動に活かしていきたいという意見が多かったのはもちろんですが、参加者同士での交流も多く見られ、その交流が今後の活動に繋がっていくようなイベントになったと思います。

二次的自然のあり方においては、持続性と継続性が極めて重要な要素となります。今回の学びを通じて、二次的自然を次世代へと引き継ぐためには、伝統を維持するだけでなく「繋いでいくこと」と「新しく創ること」の双方が不可欠であることを再認識しました。

陽楽の森では里山の維持管理において、多様な連携を図りながら次世代に向けた新たな価値を創出しています。また、護念院の取り組みからは、庭園や二上山といった地域の文化的価値を次世代へ繋ぐために、その価値を広く伝えて関わりを増やし、多様な参画者と共に歩むことの大切さを学びました。

二次的自然を守り、次世代に繋いでいくためのプロセスを学びました。そして、そのすべての活動において、「人の関わり」が最も重要な鍵となります。

そして、人と関わりながら自然を守るということの難しさをこのツアーを通して学び、自然保全の重要性を感じるツアーとなりました。奈良県という自然と歴史と人が融合した都市だからこそそのスタディツアーでした。

また、参加者ターゲットを環境保全活動に意欲のある団体に絞ったことで、意見交換会では、訪問先や他の参加者にとって今後の参考となる意見が数多く挙がり、有意義な時間となりました。ツアー終了後も参加者が名刺交換をし、交流していました。人同士を繋げるという面でも成果のあるスタディツアーとなりました。本ツアーを通してつくられた参加者同士の繋がりが、今後、新たな取組へと発展していくことを期待します。